

愛しきわがまちの軌跡③

「葛西弁」

遊佐照雄

「べえべえ」「じゃんか」言葉

江戸川の南の端に位置する葛西に葛西弁という方言があります。葛西弁では、「あなた」を「おめえ」、「ください」を「くんな」、「かさい」を「かせい」などといいます。このようなエピソードがあります。

ある日の下校時、学校で子どもたちが「けえんべえ」、「けえんべえ」と葛西弁でいっているのを見て、先生には「けんべん」、「けんべん」と聞こえて、「けんべん」は朝のうちに出すものですよといったら、大笑いされたといいます。学校が終わったので「かえろう」といっていた子どもたちの言葉を聞き違えたのです。

今では、日常会話は標準語になりましたが、「べえべえ」言葉(そうだべえ)や「じゃんか」言葉(そうじゃんか)は、いまでも使う人がいます。

都市化とともに消えかけてしまった葛西弁ですが、彦田信義氏が「我が町・葛西の方言」という本を書いて、葛西弁を紹介しています。

彦田氏は「葛西弁はもともと、半農半漁の寒村で、海や田畑で大声をあげて話していたのだから、乱暴で、お世辞にも上品とはいえない言葉だが、ユニークでなぜか温かみさえ感じられる言葉」と書いています。



彦田信義さん葛西弁を語る

葛西弁の特徴は

- 「ヒ」と「シ」の区別ができない。「ヒコウキ」を「シコウキ」「シコタさんがシコウキに乗ってシガシの空へ飛んで行った」
- 「イ」と「エ」を逆に発音することがある。「この中イ、はエるべからず」「インド」を「エンド」

- 発音で「ん」がやたらに多い。「私が運転するよ」は「オレン運転すんよ」(我が町・葛西の方言より)

また、葛西弁は、漁師言葉といわれています。漁をする時、海で大きな声で短く伝える言葉として便利だったので。船で相手と呼ぶときは、「お〜う」、「いえ〜」と呼び言葉を使いました。また、「しょうがない」を「しゃんめえ」、「しゃんめえじゃん」といいました。(元漁師 関口政永)

このように葛西には、まだまだ葛西弁が残っています。

「おしゃらく」派手な衣装であでやかな踊り

葛西弁がある葛西に「おしゃらく」が伝承されています。

「おしゃらく」は雑多な性質を持つ芸能で、昭和48年、東京都の無形民俗文化財に指定されました。

「新川地曳き」という「おしゃらく」は、新川沿いに住んでいた網元の娘さんを歌ったものといわれています。新川沿いに地曳き網漁師が多く住んでいました。

「新川地曳き」の踊りの中に漁具を使った動作やあさりやハマグリをとる動作が入っています。



葛西おしゃらく 葛西にある「おしゃらく」を一度、見て下さい。

豆知識: 葛西弁では相手と呼ぶとき、親しみを込めて「おめえ」「てめえ」といいます。

江戸川区を知る<第2弾>は今回で終了します。



[卒業生インタビュー特集] いま、あなたにとって“飛躍”とは?

「最近、感じることは?していることは?」大学を卒業したあの人、この人をクローズアップ!



Hop Step Jump 輝きながら、楽しみながら

新川千本桜計画のシンボル火の見やぐら、新川の江戸情緒溢れる川辺づくりと1000本の桜並木は平成25年完成予定 [写真:まち7期 井上]

同窓会の窓



1年次の皆さん、大学の授業やグループ活動に慣れましたか? 新しい仲間との出会いを大切に活動を進めてください。2年次の皆さん、40時間の社会活動体験は順調ですか? 卒業生グループに参加している人も多いかと思います。今期の同窓会活動の一つに、江戸川総合人生大学卒業生グループとして活躍している40を超えるグループの連絡会を発足させ、卒業生グループや在校生の方が活動しやすい環境を作りたいと考えております。

同窓会正会員数は現在382名です。2年間の学びを終え卒業した仲間が集い、人生大学の基本理念(建学の精神)達成のため活動しております。

在学生と卒業生は同じ目標を共有しておりますので、交流の機会を増やして皆さんの卒業後の活動をスムーズに迎え入れたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

同窓会会長 国際4期 川瀬隆弘

大学 TOPICS

昨年9月、小岩消防署長より感謝状が贈呈されました。

平成23年9月4日(日) 鹿骨区民館において、「平成23年度救急業務協力者表彰式」が開催され、当大学に小岩消防署長より感謝状が贈呈されました。

これは、大学の授業において救急救命法についての知識を身につけたことや、大学祭で防災コーナーを設置したり AED の使用方法について来場者に実際に学んでもらったことが評価されたものです。



編集後記

3.11東日本大震災から早1年近くが経過。その衝撃を忘れまいとするかのように未だに揺れ動く日本列島。被災地の早い復興をお祈りするとともに、私たちのできる限りの支援の手を滞らせてはいけなと思う今日この頃です。

大学を卒業されて、そのお人柄と社会活動に多くの人々に自慢したくなるような先輩方がたくさんいらっしゃいます。今回はその方たちにスポットをあて編集委員全員が手分けしてインタビューさせていただきました。紙面上、ほんの一部しか紹介できないのが残念ですが、今後も随時ご紹介させていただく予定です。

大学に関してや活発な授業の様子を知っていただくためにも、編集委員一同、読みやすい紙面づくりに知恵を絞ってまいります。今後とも当情報紙にご注目ください。

編集長 井上 眞

編集:「ひと あい えどがわ」編集委員

[6期生] 川名信義、小林隆子(まち) 田代耕太郎、安武和子(国) 小谷勝彦、高津陽子(子) 伊久美明、川本幹子(介)

[7期生] 井上眞、齋藤彰吾(まち) 寺本孝行、矢島芳男(国) 小田口清美、鹿野恵子(子) 永田光恵、武藤孝(介)

[8期生] 伊藤記子、鳥羽山晟(まち) 寺田佳子、土井芳夫(国) 荒井幸代、佐久間鐵雄(子) 福島克己、八武崎美子(介)

8期生クラス探訪 昨年入学した1年次の各クラスではいま何を学んでいるのか、クラスの様子を覗いてみました。



江戸川まちづくり学科

第1回「えどがわの種」探しに、江戸川河川敷に出かけました。ピクトブを初めて体験。水辺の自然環境との触れ合いを通して、自然の大切さを知り、次代に残したい自然環境を考える、という勉強でした。

国際コミュニティ学科

「仏教伝来とその音楽」の講義で一定の節をつけて仏典を唱える「声明(しょうみょう)」を体験しました。荘厳な声明に日本音楽の源流を学ぶとともに、仏典の意味を教えていただき、仏教文化への理解を深めることができました。



子ども・子育て応援学科

「これから2年間一緒に学ぶ仲間との信頼関係を作るため、まずコミュニケーションをとりやすくしましょう」ということで、3グループにわかれて机を並べかえ、それぞれの顔が見えるようにして、授業がスタートしました。

介護・福祉学科

合同授業での7期生による福祉マップの発表です。先輩の工夫、努力とご苦労が深く感じられました。村田学科長からも絶大な好評をいただきました。私達も、来年はガンバラないと...



